

泉北部レクリエーションゾーン活用事業基本計画  
関係団体ヒアリング概要

【美濃焼おかみ塾】

- ・土岐市では美濃焼がありふれているがゆえの美濃焼の魅力や価値に鈍感。
- ・レクリエーションゾーンは「陶育」（陶磁器を活用した教育）を実践する場として活用できるのではないか。
- ・土岐市にしかない拠点、土岐市でしかつくりえない拠点であって欲しい。
- ・美濃焼のプロセスを体感してもらうには1回の滞在では難しいので複数回訪れて欲しい。
- ・窯元の to B の取り組みはこれまであまり実践できていない。レクリエーションゾーンが企業マッチングのような場になれば非常に面白そう。
- ・泉町や定林寺ならではの地域性、地域資源（ウォーキングコース、マツタケ、モウセンゴケなど）を活かしてほしい。

【土岐青年会議所（J C）】

- ・J Cが実施するイベントの会場として活用できる可能性がある。
- ・「野焼き」をはじめとした美濃焼の体験は、キャンプ場と親和性は高いと思う。野焼きは1泊して翌朝持って帰れるのがコンテンツとしては魅力的。J Cが主催で野焼きを実施したことがある。レクリエーションゾーンでも出来ないか。
- ・土岐 IC とレクリエーションゾーンの直行直帰とならない交流人口をどうつくるのが重要だと思う。
- ・異業種交流として土岐にイノベーションを創出する契機ともなるのではないか。
- ・他の陶磁器産地の人の話は聞いてみたい。外部の人と話すだけでも良い。ただし、美濃焼が誇る各工程の専門性は世界的にも見てもすごいが、外に伝えていきたいかという、技術の流出の怖さもある。
- ・「日本最大の～～」など、1番のものがあると売りになると思う。
- ・地元の学校の体験活動とキャンプで、県外から来た子供の交流も面白い。姉妹都市である焼津市と交流する拠点として活用してはどうか。
- ・地域の子ども、地元の事業者を巻き込み、地元根差した拠点であって欲しい。

【道の駅志野・織部 協同組合土岐美濃焼卸センター】

- ・レクリエーションゾーンの客に、美濃焼との接点を持ってほしい。
- ・来訪者には1泊2日で直行直帰ではなく、ある程度長期滞在して欲しい。
- ・一定数以上の来訪者が来てもらえることが重要。少数のニーズではなかなか踏み出しづら

い。

- ・地場産業である美濃焼を来訪者に体験してもらえることが必要不可欠。窯で焼くという体験、作陶という体験が土岐市来訪客向けには一番重要と思う。
- ・穴窯や登り窯を新たに整備しても面白いと思われる。
- ・成型するだけなら30分程度、あるいは素焼きの絵付け体験であれば比較的簡単にできる。野焼きもキャンプと相性がよさそう。
- ・物販機能としては基本的に道の駅で事足りるのではないか。道の駅でキャンプ用の食材も購入できる。

#### 【泉陶磁器工業協同組合】

- ・拠点整備のニュースが出たときは、当該エリア一帯がすべて開発されるのかと思っていたが、それが誤解であったことがわかった。自然資源に配慮して整備してほしい。
- ・定林寺の山はキノコや山菜が収穫可能であり、体験コンテンツや食文化として発信可能ではないか。
- ・定林寺湖のペトログラフは、考古学的な関心が強い人たちにとっては魅力的なコンテンツになるのではないか。
- ・キャンプ場利用客にも窯元巡りして欲しい。地域のお祭りとタイアップできると良い。
- ・キャンプ場での美濃焼体験コンテンツとして「野焼き」は最適だと思う。
- ・本格的な美濃焼体験をしてもらううえでは、複数回に分けて土岐市に足を運んでもらうような仕掛けが必要。複数回に分ければ、土岐市にまた来てもらえる動機になる。
- ・拠点に陶器の看板やモニュメントなど設置する際は、ぜひ連携したい。

#### 【土岐市観光ガイドの会】

- ・食に関して拠点候補地一体は利便性がないのが現状。ただし、地域特産という意味では、自然薯やキノコ類を打ち出すことは可能ではないか。
- ・「花」は春夏秋冬年間通じて多様に楽しめ、人を呼びやすいコンテンツである。シデコブシ、ハナノキ、ヒトツバタゴといった木が自生している珍しい地域である。
- ・定林寺の歴史にも注目すべきである。昔は定林寺地区一帯が境内だった。全国第8位の大寺院だった。

#### 【土岐商工会議所】

- ・現状として、拠点整備の全体像がオープンになっていないこともあり、商工会議所の構成員から要望や具体的な活用ニーズは出てきていない。

- ・拠点との直行直帰ではなく、いかに市内を周遊して土岐市を堪能して帰ってもらえるかが重要である。
- ・美濃焼の産地であること、自然豊かな拠点という観点で、クラフトキャンプはアイデアとして有力ではないか。

### 【YOITOKI】

- ・単なるイベント会場としてのニーズは乏しい。フェス会場なら需要はあるかもしれない。
- ・土岐市ならではの、土岐市だから、という施設が欲しい。そういう施設があれば地元の人には自慢したくなるはず。現状は、土岐にはアウトレットとイオンモール土岐しかない。土岐市外の人に「土岐にはこれがある」と思われる施設にしたい。
- ・休日はキャンプ場利用客が多い。いかに平日稼働を高めていけるかが重要ではないか。平日は地元の人に使ってもらえると良いが、皆働いているため利用されない。経済的に余裕のある高齢者や時間に余裕がある大学生などをターゲットにするのも手段のひとつ。
- ・小学生等の幼少期の原体験も重要だが、高校生世代への訴求も極めて重要である。Uターンしてもらったり将来的に帰属意識を高めてもらうためには、高校生世代へのアプローチが重要である。
- ・土岐市民は収益化が苦手。高付加価値化を実現できる拠点となって欲しい。美濃焼産業で言えば、いかに土に付加価値をつけて売るか。
- ・オープンファクトリーや野焼きはコンテンツとしてよいと思う。
- ・体験コンテンツとして野菜の収穫も一案である。畑を併設し、お金と時間にゆとりのある地元の高齢者に管理してもらおう。「地元の人が育てた野菜」としてブランディングが可能。

### 【土岐商業高校】

- ・土岐で子供たちが遊ぶ場としては、既存の公園や体験施設との住み分けが必要なのではないか。
- ・体験という意味では、「その場でつくってその場で使う」というようなやり方も面白いのではないか。
- ・情報科システム管理コースでは、AR を活用した地域貢献の在り方を模索している。QRコードをスマホで読み取ると、拠点棟での展示についての解説や自然についての説明がAR技術で浮き上がるようなことも技術的には可能である。
- ・授業の成果を披露する場所として活用できるかもしれない。

### 【NPO法人ひととき】

- ・野外イベントの開催候補地としては魅力的である。
- ・ひととき主催で土岐の市民団体・まちづくり団体の発表会を年1回開催している。そういった場や、謎解きイベントの会場として良いのではないか。
- ・土岐市には宿泊施設が少ないのが課題である。
- ・キャンパーに限らず人が集まる場であって欲しい。ひとときが運営主体となっても良い。
- ・何か会合やイベントをやろうとなったときに集う場がないのが土岐市の大きな課題の1つである。
- ・高齢者が通える場をつくってみたい。非日常的な空間として。
- ・こういう拠点を整備していくうえでは、みんなで作ったというのが重要。みんなが参加してつくるようなプロセスが重要である。
- ・美濃焼を外向けにどう打ち出していくかが非常に重要である。美濃焼で括らず、土や釉薬といった諸要素に分解しても面白いのではないか。

### 【Mama's Cafe】

- ・現役のママの意見として、キャンプというニーズは基本的にはない。ただし、土岐市に今ない形で子供が遊べる場は欲しい。
- ・キャンプと聞くと少し引いてしまうのが正直な感想である。しかし、清潔感のあるキャンプであれば、やってみたいとも思う。
- ・子どもの遊び場を整備するにあたっては、森の幼稚園やプレーパーク（NPO法人フリースペースたまりば）と方向性を寄せるのではなく、SPらしい差別化をして欲しい。
- ・地元の小学校、中学校の林間学校等に活用してもらえるような場だと良い。
- ・子どもと一緒に「体験」ができる環境を作って欲しい。自然を使ったおもちゃ作り体験や、気軽なBBQなど。
- ・記念になる素敵な「写真」を撮ってもらえる拠点にして欲しい。ママ達は何かの記念日を設定するのが好きなので、初めて記念日、体験記念日となるようなイベントをして、子供の写真や家族全体の写真が撮ってもらえると良い。自然の中ではスタジオではとれない雄大さがある。フォトグラファー常設にってもらえると、自分たちではとれない写真として記念になる。
- ・屋外拠点やアウトドアならでの付加価値がつけられると良い。ドッグキャンプを作れば犬好きの人たちにアプローチできるし、マルシェを開催すれば賑わいが生まれる。
- ・当団体は、貧困の中でも「経験の貧困」にフォーカスしている。「経験の貧困」に陥っている子供たち向けに手を差し伸べるような取り組みの一環としたい。
- ・ママズカフェではNP（ノーバディーズ・パーフェクト）やBP（ベビープログラム）を開催している。これらのママ向けのプログラムを拠点で開催する案は非常に良いと思う。

### 【土岐市飲食店組合】

- ・レクリエーションゾーンは、土岐市に生まれ育った人たちにとっては思い出の地。楽しかった原体験をこれからの土岐の子供たちにも経験して欲しい。
- ・高校生以下が車なしで行くにはアクセスに難があるので、子供たちだけで行ってもらううえでは、シャトルバスなどを整備する必要がある。
- ・誰にとっても気軽な遊び場となるような敷居の低さが必要ではないか。キャンプしない人も多いため、手ぶらで遊びに行っても十分楽しめるような拠点だと良い。
- ・野焼きを体験コンテンツとして実施する案は非常に良いと思う。火の親和性も高い。
- ・飲食事業者としては、外から訪れる人が増えることで、連動して飲食店を利用してくれる人が増えるという流れを期待したい。
- ・新たな拠点にレストランを設けたり貸厨房やテナントがあったりしたとしても、事業者としての意向はあまり強くないおそれがある。キッチンカーの出店ぐらいが丁度良いと思う。
- ・キャンパー向けに手軽な食材セットを提供することは可能である。当日いきなり、あるいはランチタイムディナータイム重複すると厳しいが、事前予約してもらえれば対応は可能。
- ・自然薯を真空パック（レトルト）でキャンプ場利用者に提供することは良いと思う。観光協会と飲食店組合で自然薯を推している。すり鉢を使って、自分たちで自然薯をすりおろす体験も面白いかもしれない。